

ベトナム編

ホーチミン市のイスラム教事情



シェラトン・サイゴンの隣にあるセントラル・サイゴン・モスク(左)。右上はベンタイン市場近くのハラルレストラン街。下は同市場の近くにあるモスクとハラル・アイスクリーム売りの自転車。

社会主義国家であるベトナムには、イスラム教徒も住んでいます。

歴史的に見ると、ベトナム中部で192年に建国されたチャンパ王国はヒンドゥー教を受容していたのですが、10世紀あたりには徐々にイスラム教に改宗していく人が増え、17世紀までには王族らも信者になりました。王国は1832年に滅亡しますが、それまではマレー半島北部のクランタン王国と交易があったようです。その後もマレー半島とは交流が続き、マレーシアはベトナム戦争後には多くのイスラム教徒難民も受け入れています。

現在のベトナム政府による6つの公認宗教のうちの1つであるイスラム教の信者数は最も少なく、総人口(2019年推定9651万人)のうち0.1%ほど。南東部に多く住み、ニントゥアン省(リゾート地として有名なニャチャン南部)に最も多く、ホーチミンにもイスラム教徒は住んでいます。

さて、ホーチミンを歩くと、ときおりモスク(イスラム寺院)にぶつかります。その一つが日本人にも人気のドンコイ通り近くにあるサイゴン・セントラル・モスク。ホテルのシェラトン・サイゴンの隣にあり、エメラルドグリーンを基調にしたモスク内にはマレー語も記載されています。入口近くには5回の祈る時間が掲示されており、ここはマレーシアのマレー人も祈りに来る場所としても知られています。ホーチミン市内にはこのほかにもモスクが3軒ほどあります。ただ、イスラム圏でよく聞かれるモスクからのスピーカーによる大音量の祈りの呼びかけはありません。

また、格安航空がマレーシアやインドネシアからベトナムに毎日運航していることから、多くのイスラム教徒観光客も来越。マレー人は特にベトナム産繊維に関心が高く、ベンタイン市場周辺にある繊維問屋を訪れ、品定めや交渉をしている姿をよく見かけます。このため、この辺りにはイスラム教徒向けのハラルレストランもあり、彼らにとってホッとできる場所でもあるようです。